

『旅の記録』 by 秋口守國

！3.12 東北、甲信越の旅

1、行程は、12月2から5日まで、宇都宮—福島—盛岡—花巻—北上—金ヶ崎—水沢—（いったん自宅に戻り）—河口湖＝（バス）＝甲府—松本—糸魚川—長野を回ってきました。JR東日本の大人の休日・東日本4日間パスを使い、新幹線を含めて特急の自由席は乗り放題（指定券は6回まで）で、心おきなく優等列車を活用できました。東京から盛岡までは新幹線を利用して宇都宮、福島は途中下車し、盛岡から東京までは、北上川を眺めたく在来線を活用し一関までこまめに下車した後、新幹線利用しました。千葉から河口湖、甲府から松本、そして南小谷までの3区間は全車指定席の特急あずさであり、十分にこの切符の良さを生かすことが出来ました。コロナ禍であり、これまでの旅では閑散とした車内でしたが、今回はコロナも収まりつつあり、乗客も増えていて利用率は半分程度、特に、最終日は日曜日夕方長野から東京への特急「かがやき」は、指定券完売、ほぼ満席でした。

2、旅の狙いは、先ず、この季節美しく輝き・まぶしい雪山を見たい、次に、ここ2年土木の歴史をたどりながら大河川を眺めることで、アクセスしらい北上川、及び武田信玄で話題になる釜無川（静岡県では富士川）における水制の様子を眺めたい、そして、河川を上手に取り込み、更には街づくりをした城跡などを眺めながら歴史・地理を振り返り、これに取り組んだ人々の想いにふけりたい、加えて、水沢の偉人記念館などを訪ね、彼らがどのような生涯を送ったのか、残された遺品などを見ながら偲んでみたいとの3点でした。欲張り過ぎだったかもしれませんが、毎日10から15kmを歩き、時代を振り返る時間軸をもとに、刻まれた地形、人の国土への働きかけなど、夫々短時間の訪問・駆け足でしたが、十分に体感できて、とても有意義な旅でした。

3-1、12月に入り、国内の高山は**雪景色**です。百名山を制覇した仲間たちとは異なり、私は山歩きが苦手です。いつも下からしか眺められませんが、最近の細密なテレビ画像などで、雄大な山並み、山頂からの景観をたくさん見ており、それらと繋なぎ合わせて立体的に想像することが出来ました。今回は、盛岡に向かう車窓から那須や蔵王、岩手山などの森林限界から上は見事な雪景色でした。因みに岩手県に入ってから、街なかでも足元には雪があり、盛岡ではうっすらと積もっていて底冷えをしましたが、心はかえってしゃっきりしていました。

また、素晴らしい天候に恵まれて河口湖に至る車窓からは、見事な富士山が方向を少しづつ変えながらも、どっしりとした姿を現し、その後、河口湖畔から、更には甲府に向かうバスからも後ろに見える富士山が道路の曲がりに応じて、また、陽の当たり方により微妙に変化し、もう十分だと見飽きるほどで感動の極みです。甲府からは遠くに南アルプスの山々が、また、地図を見ながら、松本から大糸線に入ると千m程度の高さに雲が出始めましたが、その合間から穂高岳をはじめとして素晴らしい北アルプスの山並みが続き、特に信濃大町では烏帽子岳や鹿島槍ヶ岳などが、白馬からは五竜岳や白馬岳などの眺めは圧巻、大パノラマでした。

加えて、本来紅葉は過ぎているはずなのに、金ヶ崎、水沢、甲府、松本、長野市内では陽当たりの良い所はまだレンガ色の葉が残っていて、武田神社では七五三でお参りの子供たちの写真に、紅葉がよく映えていました。雪山で十分のつもりでしたが、遅れた紅葉も楽しめるなんて旅行者冥利に感じ入ります。

『旅の記録』 by 秋口守國

3-2、地図をご覧くださいと北上川は、残念ながら東北本線に沿った区間は少なく、その様子は、下車した都市で川に出るなど、特別に意識しないと眺めることが出来ません。昨年来、大河川を見て回りましたが、北上川は盛岡市内でこそさほどの大きさではありませんが、雫石側から合流した後、山系に囲まれた幾多の支流を合わせのみ、その中下流での流量は申し分なく大きく、堂々たる眺めです。江戸時代以前から水運としても大切な役割を果たしており、本川には利水用の堰などはあるのですが、盛岡から下流にはダムは無かったと思います。明治時代初め、外国人技術者の手を借りてでも、何故、他にもない北上川に河口港を野蒜に作ろうと果敢に挑戦したのか、その気持ちが良く理解できました。当時は交通の幹線・拠点として大きな意義を持っていたのですが、残念ながらこの時代の技術・資力では港つくりはうまくいきませんでした。

甲府では有名な**信玄堤**を短時間でしたが、眺めました。すでに多くの文献などでも取り上げられており、私もその幾つかを読んでおります。農産物の収穫確保、人心の安定などにあたり、信玄などの指導者はじめ地域の民も一緒に、総力を挙げて取り組んできた課題でした。本川である釜無川に流れ込む、支流の勅使川などの激流をいかに制御するか、石積みを様々工夫し流路を安定させ、堤防の強度を保てない所は流れの衝突地点を動かすなど上手に制御し、更には堤防に切れ目を入れ、その裏には、かつて蛇行していた旧水路の堤防を活用し霞堤するなど、様々な方策を講じ対処してきました。それ以降も水は弱い所を、これでもか、これでもかと攻めてきて、水との戦いにはなかなか勝利できなかったようです。

3-3-1、盛岡、花巻、金ヶ崎、甲府、松本などは**城跡**が残っています。東北は前九年の役、後三年の役など、藤原の時代から柵を設け、更には実践的な城づくりをしてきました。盛岡、花巻、金ヶ崎城は北上川の流れや河岸段丘などを上手に工夫し取り込んでいる様子がよく見て取れます。城づくりは年代に応じて様々な要因を加味、工夫しながら出来てきましたが、基本原則がきちんとあるようです。徳川による天下統一されるまで、夫々の地形を十分に探査し、徐々に山城から下りてきて、河川や崖などを上手に生かし、はじめは土を掘ってこれを盛ることから始め、石垣のような技術を取り込み、大木を使って門構えを整えるなど、持てる技術を凝らし守りを固めてきました。地域ごとに、その役割に従って、紆余曲折を経て城がつくられ、また滅ぼされるなどしながら、その幾つかは残り、往時の見事な姿が再現されています。各県の「歴史散歩」の本を手にも、周辺の城との位置関係を読み取り、戦いの様子など、成立・存亡の経緯を押さえながら眺めると深みを感じ、なかなか見ごたえがあります。

甲府では武田 3 代の時代は北側の山裾にありましたが、江戸時代になると甲府盆地の中心部に近く下りてきて、地域全体を管理し、住民の増加、商業の発展を目指し交通の便を良く考慮されたことが、地図と現地を照らすとよくわかります。ただ、この城づくりにあたっての苦勞、どんな人がどのように駆り出されたのか、その時の地域農民たちの気持ちを史実はあまり語ってはいません。

松本城は 3 大名城の一つとして、凛々しくやはり見事です。大学時代の今は亡き親友が松本深志高校の出身であり、これまで時間制約から訪問が出来ませんでした。今回は時間を割き、市東方にある旧制高校の建物がそれだろうと見に行きましたが、私の思い違い、旧制高校はその後信州大学にとってかわられ、松本深志高校は城の北側方向にある別のものと告げられてしょんぼり、事前にしっかり調べておけばよかったと反省です。ただ、松本の市街地は古き伝統と、斬新さが上手に溶け合い、季節を問わずいつ来て、歩いてもしっかりと、味わい深い、楽しい街です。

『旅の記録』 by 秋口守國

水沢では当地生まれの**3偉人**として、高野長英、斎藤實、儀藤新平の記念館を回りました。江戸時代末期にシーボルトなどの教えを受け心酔し、海外に目を向ける開明派となって幕府の対外政策を批判し、結果脱獄・逃亡の末、明治維新を見ることなく、捉えられ自殺しました。斎藤實は、海軍兵学校を卒業後、米国勤務歴任などして海外事情に明るく、その後、海軍大臣や朝鮮総督、内閣総理大臣に就任、そして、内大臣の折 2.26 事件に巻き込まれ殺害されるなど激動の時代を走り抜けました。後藤新平は始め医学に入りましたが、その後、台湾民生長官、満鉄総裁、内務大臣などを歴任し、その間に東京市長として震災復興にあたり大風呂敷といわれつつも尽力をし、都市計画の先達としてとても興味が深く、先見性にあふれ、広い視野、懐の深い考えや大胆にして緻密な行動には驚嘆という言葉がぴったりでした。これらの偉人たちの生きざまをつぶさに見て、時代、能力、人とのつながりなどで想像を超えるものとはいえ、夫々、与えられた仕事に真っ直ぐ、全力で向かい、失敗を恐れずに、突き進んでいった姿は素晴らしい、素直に感銘しました。ほんの少しでも、その知識、知恵、行動力を自らに取り込みたいものです。

3-3-2, 糸魚川は 5 年ほど前に大火があり、その後、街並みの整除を行うなどした様子を見ながら歩いてみました。日本海からの西風が、特に冬は卓越していて、これまでもしばしば大火事に襲われました。密集した家並から、これまでも耐火建築や広場の確保、道筋の整理など、営々として防除策を真剣に考え、講じてきて、効果は上がっていますが、万全ではありません。出火するとこれを防ぐには難しく、基本は火を出さないよう普段からの注意と、出た場合は人命の安全確保を第 1 にして、消火・避難に努める他ありません。

日本人は、この国土から大いなる自然の恵みを存分に享受し生活しているわけで、それに伴う災害リスクも合わせて受け入れざるを得ないのでしょう。よく被災地からのテレビ報道で、こんなこと生まれて初めてとか、ここに住んでいてこんなことは無かったなどの意見を耳にします。洪水被害などに関して、もともと川はこれまで自由きままに流れてきたものを、先人たちはその時代に応じて持てる知識や技術などを駆使し対策を練りながら、今あるような川幅に押し込めてきました。しかし、雨の降り方や川への流出、そして河道内に抑え込まれたつけはいずれやってきます。公的な機関が「想定外」という言葉は発するのは、昨今禁句とされつつありますが、これまでの私達の限られた経験を超える様々な災害は、いざれどこでも、必ずやってくると覚悟しなければなりません。まずは、地域にはどのようなリスクがあるか把握・理解し、自らの命は自らで守らなければならないと肝に命じておくべきです。

長野と言えば善光寺で、門前町を含めて街並み、賑わい共にいつ来ても楽しいのですが、私にとり、それ以外に市街地には見るべきものがあるのかなと、ガイドブックなどで探しながら、いつも考え込んでしまいます。今回は 2 時間しか無かったので諦めましたが、かつてお城のあった松代などにもいざれゆっくり足を延ばしてみようと思いつきながら、宿坊・商店街・劇場などを見ながら参道を歩きました。

3-3-3, 宇都宮では現役後輩が副市長をしており、励ましを含めて訪問し、今、郊外に至る LRT を建設中とのことで、車両基地を訪ね真新しい車両にも乗せてもらいました。富山のものより大きく・長く・ゆったりした車内です。全体的な工事は順調ですが、宇都宮駅東側で、民間企業と連携して広場・建物などを整備するつもりだったようですが、コロナ禍、企業の参入などに支障が生じ、暫定的な駅・乗り換え施設にならざるをえないと悔しがっていました。宇都宮市の実力からして、いずれ、駅西方面への延

『旅の記録』 by 秋口守國

伸時点までには、これら課題にも対応できるだろうと感じています。我々土木の仕事は自らの名前をそこに残しません、後任たちは先輩たちの思いを真剣に引継ぎ、時代に応じてさらに改善・工夫を凝らし進めてくれます、だから自らの時代では、テーマに対し全力を尽くそうと語り合いました。

福島ではかつて市職員をしていた仲間が、昨年、地元の隠れた偉人であり、東京の都市計画などに尽力した堀切善次郎に関する出版をし、地元で賞を取りました。それで、文筆に関して火が付き、かつて福島県知事などを歴任した三島通庸、さらには東京の橋に係わる技術者たちの伝記物を書くべく、資料を集め執筆にとりかかったが、このところ壁にぶち当たってしまったとの連絡が入りました。私自身にとり出版経験はありませんのでいささか戸惑いましたが、彼の悩みを聞き、何とか、現在の壁を打破できるように、語り合い、励ましてきました。帰宅後、MAILで「秋口さんに会って元気が出ました」とのこと、老爺としての務めを幾分か果たせたのかなと感じています。

3-4、僅か4日間でしたが、日本は素晴らしい国土、そこに多くの国民が生活をしていて、天の時、地の利、人の和を感じる事が出来た**実り多い旅**、そして、このように動きまわられる体・健康に感謝です。今年は、オリ・パラの時は自粛、それ以外はコロナの感染状況などをしっかり押さえながら、毎月のように人混みを避けての目的地やルートを探して国内を回り、おかげで、都市・交通計画に留まらず土木技術全般について、先人たちが何故ここに作り、それがいかなる貢献をし、更にこれからも上手に活用されるだろうかをじっくり見ながら考えることが出来ました。

特に、我々の時代が、今あるものを使い捨てるのではなく、さらに磨きをかけて次の世代につないでいくことが出来るのが大切です。今回の旅でも幾つかのヒントが見えてきました。既に言い古されていますが、その一つは、「作るから使う」の時代に移り、維持・管理・経営の大切さを再確認し、地域の人・利用者の声に耳を傾け、自信をもって課題に取り組み、そして、前提条件やリスクなどを明示しながら、わかりやすく代替案を含めた提案することだと思えます。このため、抽象的な段階に留めず、可能な限り具体化し、より真剣に考え案を作り、実現に向けて行動していかなければならないとの思に至りました。 以上

2021.12.11 記

昨年から今年にかけて、国内訪問先は下記（3年間では高知県だけ訪問できず）のとおりです。

当初、バルト3国、ウクライナ、ポーランド、フィンランド及びマレーシア・タイ、ベトナムの鉄道旅を計画・予約しましたが、コロナ禍で全てキャンセルとなり、結果、国内をかなり丁寧に旅しました。

2020年1月：ミャンマー・タイ・カンボジア・ベトナム横断のバス旅。

1月：大阪。1月：福岡・佐賀・長崎・熊本・鹿児島。3月：沖縄。5月：千葉（県内一周）。6月：新潟・福島。7月：大阪、山口、福岡、熊本。9月：福島（尾瀬）。9月：北海道。10月：長野（上高地）、秋田、岩手、宮城。10月：千葉（小湊・いすみ鉄道、南房総）。11月：沖縄。11月：千葉（房総のむら、佐倉歴史博物館）。11月：大阪、奈良、和歌山、徳島、香川、岡山。12月：新潟、青森、宮城。

2021年3月：群馬・埼玉。3月：東京（陣馬山・高尾山）。3月：大阪、三重、岐阜、愛知、長野。4月：新潟、宮城、福島、茨城、静岡。5月：茨城（関東・真岡・鹿島臨海鉄道）。5月：千葉（久留里線）。6月：山形、宮城、岩手、青森。7月：福岡、熊本、大分、愛媛。9月：北海道。9月：群馬、長野、富山、岐阜、愛知、静岡。10月：大阪、兵庫、滋賀。10月：沖縄。11月：東京（多摩）。11月：千葉（銚子、大多喜、亀山）。12月：栃木、福島、岩手、山梨、長野、新潟。